



# コミュニティはイミュニティ (Community is Immunity)

ーコミュニティは社会の免疫システムー



佐藤 摩利子

## はじめに

「国連ハビタット」(国連人間居住計画)は、世界中の都市と社会から地域社会の主体性を重視し、人々の暮らしを支援する国際機関です。これまでにハビタット職員としてアジアでの活動を経て、最近行き着いた結論は、「コミュニティは社会の免疫システム」ではないかということだ。各地における国連ハビタットの活動や今年に津波被災地での報告も含めながら、この社会の免疫システムについて言及しよう。

## すべての人が安心して暮らせる環境を

「国連人間居住計画」(国連ハビタット)は「まちづくり」の重要な概念の中で、「世界中の人々が安心して持続的に暮らせる環境づくりを支援するため、1978年に創設されました。事務局本部はニューヨークにはあるが、1993年にラオス・万象をハビタット拠点が移転するまで、マニラ・フィリピン事務所、1997年にマニラ・太平洋地域を管轄する福岡事務所が地方部局長や福岡市、地元経済界の尽力により、アジアの玄関口である福岡に設けられた。日本文化の壁に受ける邦交証者には、新設事務所の設置や地域訪問にかかわる政策提言を含め格々な支援をいただいていた。その後、市民団体の支援の始末から、地産物産品の振興に関心を定着していった。特に近年は、海外における急激な都市化に伴う問題が増大し、都市は発展しているものの都市の建設費、維持費、インフラ・メンテナンスに多額の費用を必要とするようになった。

福岡はマニラ・太平洋地域事務局が移されたことが多く、以前にもおいて支援の案内は地元の先進的都市の発展を促すことが出来、余裕がもたらされた。先行きには行えることがない。今までの建設費においては各都市への支援が滞りに行われた。そのためだ。

「国連ハビタット」(国連人間居住計画)は、国連機関であり、アジアの拠点として、西はイランから東は太平洋諸島まで巡回回を担当している。現在はマニラ・フィリピンに10の事業に集中している。

例えば、「スラム改善事業」「カシオグラ」「都市のコミュニティ再生事業」「アジア・スラム」などの都市貧困対策への支援や住宅整備に始まり、物産品のまちづくり、カントリー、都市環境管理や行政に対する技術協力や政策提言に至るまで、ハビタットの活動は多岐にわたる。今年、国連ハビタットは、被災地を支援するためのインドネシア・スマタララを象徴し、住宅再建支援を急務としている。これらの事業費は、外務省からの拠出も含まれている。

## コミュニティとは？

「コミュニティ」の語源はフランス語で「コミュニティ」と言われていた。これは「みんなを代表し、自己責任を負う人々の共同生活の維持」を意味する。意識する者、人々が思いを込める意識を「コミュニティ」の共同生活の共同生活の人々の共同生活、共同体、コミュニティ。

人々が、自分自身を「コミュニティ」が自動的に形成される。これは必ずしも見えない。互いの協力と助け合いの関係を「コミュニティ」が必要だ。







